

中途視覚障害者向け医療コミュニケーション訓練教材の開発
ー鍼灸院通院患者の健康状態と意識に関する横断研究ー

研究分担者 福田文彦 明治国際医療大学 鍼灸学部 准教授

研究要旨：授業時に筆記行動が見られない理療教育在籍者を対象に、文字入力システムを導入する教育プログラム作成するために、実際に鍼灸治療施設来院患者を対象に「良好な医療面接の要素分析」「鍼灸等臨床時の筆記行動」などに関するアンケート調査を実施した。

その結果、今回対象となった患者の健康状態は、Tariff スコア(EuroQol)は平均 0.72 ± 0.14 であり、鍼灸治療の対象症状では、腰・背部が最も多く、次いで膝・足、肩、首の順であった。施術者に対する信頼度と満足度については、先生への信頼、症状の話しやすさ、コミュニケーションが認められた。また、筆記の代わりに録音する事に同意できるかの質問では、「できる」が 51.2%、「できない」が 14.6%、「わからない」が 34.2%であった。

A. 研究目的

晴眼者、視覚障害者を問わず鍼灸あんまマッサージの臨床現場におけるコミュニケーション、筆記行動に対する教育プログラムや教材、特に筆記行動が見られない視覚障害者を対象とした文字入力システムを導入する教育プログラム作成するために、実際に鍼灸治療施設来院患者を対象に「良好な医療面接の要素分析」「鍼灸等臨床時の筆記行動」などに関する調査を実施した。本研究費による調査では、最終目的である日常生活、学習、就労による自立を目指す中途視覚障害者の筆記行動を促進、中途視覚障害者向け医療コミュニケーション訓練教材の開発につなげるものとする。

近年、本邦は急速な高齢化に伴い、平成 21 年 9 月の人口統計月報 1) では 65 歳以上の高齢者が占める人口の 21%以上を超高齢者社会になったと報告している。高齢者は加齢による生理機能の低下に伴い、様々な疾病および症状が現れることが知られている。平成 19 年国民生活基礎調査 2) より、65 歳以上では約半数が何らかの自覚症状を有してお

り、男性では「腰痛」、「頻尿」、「手足の関節が痛む」、女性では「腰痛」、「手足の関節が痛む」、「肩こり」が上位を占めている。さらに同調査における病院通院患者状況では、65 歳以上の男性では高血圧、眼の病気、糖尿病に次いで腰痛が多く、女性では高血圧、眼の病気に次いで腰痛が挙げられている。

また、全国の市町村を無作為抽出し一般市民 2000 例を対象に「腰痛」、「膝痛」に対する受療経験についての報告 3) では、いずれの受療経験も 1 位は病院であり、鍼灸治療は「腰痛」では 5 位、「膝痛」では 4 位であった。しかし、受療満足度では鍼灸治療が最も高かったと報告されている。患者満足度については、医師と鍼灸師とでは、問診や治療の時間など患者に対するコミュニケーションのとり方についての違いがあり、その違いが満足度に影響を与えているのではないかと分析されているが、詳細については解明されていない。

一方、鍼灸院通院患者に対する意識調査は 10 年前に高野ら 4) により行われ、その中で鍼灸医療に対する満足度は高値であり、鍼灸治療を受療する

患者の多くは「腰痛」、「肩こり」であった。その後 10 年が経過し、経済・社会情勢・医療社会の変化などによって、鍼灸医療に対する患者の意識変化、健康についての考え方が変化している可能性が考えられる。しかし、その後の調査の up date はされていない。

そこで、我々は、鍼灸院通院患者の症状、受療動機、健康状態、満足度、施術者-患者間のコミュニケーション、医療者の筆記行動などに関するアンケート調査を実施した。

B. 研究方法

1. 対象と方法

1) 調査施設

調査施設は、明治国際医療大学附属鍼灸センターおよび同大学附属京都駅前鍼灸センターの 2 施設で実施した。

2) 調査対象者

調査対象者は、明治国際医療大学附属鍼灸センターおよび同大学附属京都駅前鍼灸センターに通院中かつ同意が得られてアンケートに自己記入可能な患者とした。

3) 調査方法

研究デザイン：横断研究

対象とした患者に対して、本研究の内容についてインフォームドコンセントを行い、同意を得られた患者にアンケートを実施した。アンケートの記入は自己記入方式を用いて行い、無記名で同封の返信用封筒により直接ポストに投函してもらう配布郵送調査法を実施した。

4) 調査期間

調査期間は、平成 22 年 11 月 15 日～11 月 24 日の 10 日間（大学附属鍼灸センター：11 月 15 日～11 月 17 日、京都駅前鍼灸センター：11 月 18 日～

11 月 24 日）とした。また、回収期間は配布開始日より平成 22 年 12 月 8 日までの約 3 週間とした。

5) 倫理的配慮

本調査は、明治国際医療大学研究倫理委員会（受付番号 22-55）で承認された内容に基づいて実施した。また、アンケート回答者への権利の保護については、「疫学研究に関する倫理指針」（平成 14 年 6 月 17 日文部科学省・厚生労働省、平成 20 年 12 月 1 日一部改正）に基づき実施した。また、患者にはアンケートに同封するアンケートに関する協力依頼文書（説明文書）により調査への参加については、自由意志による同意を得るものとした。

2. 調査票

調査票の名称は、「健康状態と鍼灸治療に関するアンケート」（参考資料 1）とした。

調査票の項目は、高野ら 4) の論文などを参考に独自に作成し、1) あなたの健康状態について、2) 鍼灸治療全般について、3) あなたの身の回りのことについての 3 項目と、50 の質問内容で作成した。

1) あなたの健康状態について

健康状態については、包括的一元 HRQOL 尺度の健康指標として用いられる日本語版 Euro Qol (EQ-5D) 5)-7) と、米国で行われた主要慢性疾患患者を対象とした Medical Outcome Study (MOS) に伴って作成された SF-36v2 日本語版 7)-11) を用いた。

日本語版 EuroQol は、5 項目法 (Tariff スコア)、健康状態の評価法 (カテゴリ選択式、VAS) で構成され、効用値で換算ができるのは 5 項目法 (Tariff スコア) のみである。5 項目法 (Tariff スコア) の評価は、1 から -0.594 で表され、1 が最高の健康状態、0 が死と同等の状態、-0.594 が最低の状態 (死よりも悪い状態) を意味している。カテゴリ選択式による健康状態の評価は、今日の健康状態を過去 12 ヶ月にわたる自分の一般的な健康水準と比べて、

「より良い」、「ほとんど同じ」、「より悪い」の3つのカテゴリから選択することによって評価している。VASによる健康状態の評価は、今日の健康状態を評価しており、100が最も想像し得る良い健康状態、0が想像し得る最も悪い健康状態を表す。

SF-36v2は、36の質問を身体機能(PF)、身体の日常的役割機能(RP)、体の痛み(BP)、全体的健康感(GH)、活力(VT)、社会的生活機能(SF)、精神の日常役割機能(RE)、心の健康(MH)の8項目の下位尺度に点数化し、それぞれの項目について国民標準値に基づいたスコアリング(NBS:Norm-based Scoring)得点に変換した。

2) 鍼灸治療の全般について

- ① 鍼灸治療を受けている症状について：症状の部位(手の症状、首の症状、肩の症状、腰・背部の症状、膝・足の症状、耳の症状、眼の症状、鼻の症状、便通の症状、排尿の症状、自律神経の症状、呼吸器の症状、婦人科の症状、その他の症状)と、その部位での症状の詳細を、それぞれ複数回答による選択回答法とした。
- ② 医療機関受診の有無：受診「あり」、「なし」を選択回答法で、受診「あり」の回答者については、受診している症状と診療科を自己記入法による回答とした。
- ③ 通院期間と通院割合：期間と割合を数字にて記入する自己記入法による回答とした。
- ④ 患者-施術者関係：5段階の選択肢から、最もあてはまるものを1つ選ぶ選択回答法による回答とした。
- ⑤ 先生とのコミュニケーション：100mmの線分の両端を、0mmが全く満足していない、100mmが完全に満足しているとして、線上に印を付けてもらうVAS(Visual analogue scale)による回答とした。
- ⑥ 先生との信頼度：100mmの線分の両端を、0mmが全く信頼していない、100mmが完全に信頼し

ているとして、線上に印を付けてもらうVAS(Visual analogue scale)による回答とした。

- ⑦ 鍼灸治療費と経済状況：範囲を設定した選択肢より、最もあてはまるものを1つ選ぶ選択回答法による回答とした。
- ⑧ 環境について：4段階の選択肢から、最もあてはまるものを1つ選ぶ選択回答法による回答とした。
- ⑨ 鍼灸院全体の衛生管理：100mmの線分の両端を、0mmが全く衛生的ではない、100mmがとても衛生的であるとして、線上に印を付けてもらうVAS(Visual analogue scale)による回答とした。
- ⑩ 鍼灸受診前の鍼灸に対しての期待感：100mmの線分の両端を、0mmが全く期待していない、100mmが完全に期待しているとして、線上に印を付けてもらうVAS(Visual analogue scale)による回答とした。
- ⑪ 現在鍼灸治療に最も期待しているもの：期待している項目(健康増進、病気の予防、病気の治癒、症状の軽減、リラックス、コミュニケーション、日常生活の向上、その他)の選択肢の中から、最もあてはまるものを1つ選ぶ選択回答法による回答とした。
- ⑫ 鍼灸治療の効果：100mmの線分の両端を、0mmが効果なし、100mmが最大の効果とし、線上に印を付けてもらうVAS(Visual analogue scale)による回答とした。
- ⑬ 総合的な満足度：100mmの線分の両端を、0mmが最高に不満、100mmが最高に満足しているとして、線上に印を付けてもらうVAS(Visual analogue scale)、5段階の選択肢から、最もあてはまるものを1つ選ぶカテゴリカルスケール(選択回答法)、6段階の顔の表情から、最もあてはまるもの1つを選ぶフェイススケール(Face scale)の3種類による回答とした。

3) あなたの身の回りのことについて

Euro Qol 日本語版 (EQ-5D) の基本情報の一部を使用した。質問内容は、1) 自身もしくは家族に重病の経験があるか、2) 年齢、3) 性別、4) 喫煙状況、5) 福祉活動の参加、6) 職業、7) 教育、8) 大卒ないし専門資格の有無、9) 郵便番号で構成されている。回答方法は、年齢、郵便番号については自己記入法、その他の質問については選択回答法とした。

3. 統計解析

1) 単純集計

各調査項目について平均と標準偏差、割合を集計した。

2) 信頼性分析

患者満足度で、VAS、カテゴリーカルスケール、フェイススケールの 3 種類の評価法での一致率をみるため、信頼性分析を用いて検討した。

3) 相関係数

患者満足度と各調査項目について相関関係を Person の相関係数を用いて検討した。

4) 重回帰分析

患者満足度に影響を与える調査項目内容を抽出するために、強制投入法にて重回帰分析を行いその後、要因の認められる項目について、変数増加法による重回帰分析を用いて分析した。

統計解析には、SPSS 10.0J for Windows を使用した。

C. 研究結果

1. 回収結果

配布数 131 通のうち、回収されたアンケートは 89 通、回収率は 67.9%であった。

2. 基本情報

対象者 89 名の平均年齢は、69.1 [15.0] 歳 (男性 70.3 [15.6] 歳、女性 68.5 [14.8] 歳)、性別の

分布は男性 27 名(30.4%)、女性 61 名(68.5%)、無回答 1 名(1.1%)であった (表 1)。

表 1：対象者の人数、性別、平均年齢

性別	人数 (%)	平均年齢 [標準偏差]
男性	27 (30.4)	70.3 [15.6]
女性	61 (68.5)	68.5 [14.8]
無回答	1 (1.1)	
全体	89 (100)	69.1 [15.0]

職業は、会社員・自営業 11 名:12.5% (男性 4 名:14.8%、女性 7 名:11.5%)、退職者 19 名:21.6% (男性 14 名:51.9%、女性 5 名:8.2%)、家事 (主婦) 38 名:43.2% (女性 38 名:62.3%)、その他 13 名:14.8% (男性 7 名:25.9%、女性 6 名:9.8%)、無回答 7 名:7.9% (男性 2 名:7.4%、女性 5 名:8.2%) であった (表 2)。

表 2：対象者の職業

職業	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
会社員・自営業	4 (14.8)	7 (11.5)	11 (12.5)
退職者	14 (51.9)	5 (8.2)	19 (21.6)
家事 (主婦)	0 (0)	38 (62.3)	38 (43.2)
学生	0 (0)	0 (0)	0 (0)
求職中	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	7 (25.9)	6 (9.8)	13 (14.8)
無回答	2 (7.4)	5 (8.2)	7 (7.9)
全体	27 (100)	61 (100)	88 (100)

3.患者満足度の信頼性分析

鍼灸治療に対する患者満足度「VAS」、「カテゴリーカルスケール」、「フェイススケール」の 3 項目での信頼性分析は、Standardized Item alpha が 0.79 となり、3 種類での評価は信頼性が認められ、同一の内容であることが示された。このことから、患者満足度の分析には連続変数である VAS(Visual analogue scale)を用いた。

4. 健康状態について

1) Euro Qol (Tariff スコア) の結果

EuroQol (健康状態 Tariff スコア) の結果は、平均 0.72 [0.14] (有効数 85 名) であった。また、性別では男性平均 0.68 [0.12] (有効数 27 名)、女性平均 0.74 [0.19] (有効数 57 名) であった(表 3)。

表 3 : Euro Qol (Tariff スコア)

性別	人数	平均 [標準偏差]
男性	27	0.68 [0.12]
女性	57	0.74 [0.19]
全体	85	0.72 [0.14]

2) 今日の健康状態 (カテゴリによる評価)

今日の健康状態 (有効数 87 名) の結果は、「ほとんど同じ」が 62 名:71.3% (男性 23 名:85.2%、女性 39 名:65%) と最も多く、「より良い」が 17 名:19.5% (男性 1 名:3.7%、女性 16 名:26.7%)、「より悪い」が 8 名:9.2% (男性 3 名:11.1%、女性 5 名:8.3%) であった (表 4)。

表 4 : 今日の健康状態 (カテゴリによる評価)

健康状態	男性(%)	女性(%)	合計(%)
より良い	1 (3.7)	16 (26.7)	17 (19.5)
ほとんど同じ	23 (85.2)	39 (65.0)	62 (71.3)
より悪い	3 (11.1)	5 (8.3)	8 (9.2)
合計	27 (100)	60 (100)	87 (100)

3) 今日の健康状態 (VAS による評価)

今日の健康状態 (VAS による評価) の結果は、平均で 72.3 [15.5] (有効数 68 名) であった。また、性別では男性平均 68.3 [15.9] (有効数 22 名)、女性平均 60.0 [13.4] (有効数 46 名) であった (表 5)。

表 5 : 今日の健康状態 (VAS による評価)

性別	人数	平均 [標準偏差]
男性	22	68.3 [15.9]
女性	46	60.0 [13.4]
全体	68	72.3 [15.5]

4) SF-36 の結果

SF-36 の結果は、身体機能 (PF) が 38.4 [16.0]、身体の日常的役割機能 (RP) が 38.1 [15.2]、体の痛み (BP) が 41.7 [10.0]、全体的健康感 (GH) が 43.2 [10.9]、活力 (VT) が 46.8 [10.4]、社会的生活機能 (SF) が 43.2 [14.1]、精神の日常役割機能 (RE) が 41.2 [16.0]、心の健康 (MH) が 47.7 [11.2] であった (表 6)。

表 6 : SF-36 の国民標準値に基づいた得点 (NBS スコア)

SF-36	平均 [標準偏差]
身体機能 (PF)	38.4 [16.0]
日常役割機能 (身体) (RP)	38.1 [15.2]
体の痛み (BP)	41.7 [10.0]
全体的健康感 (GH)	43.2 [10.9]
活力 (VT)	46.8 [10.4]
社会生活機能 (SF)	43.2 [14.1]
日常役割機能 (精神) (RE)	41.2 [16.0]
心の健康 (MH)	47.7 [11.2]

5. 鍼灸治療の症状について

1) 現在鍼灸治療で受けている症状

鍼灸治療で受けている症状の部位・領域別の結果 (複数回答) では、有効回答数 89 名で腰・背部の症状 67 名:75.2% (男性 22 名:81.4%、女性 45 名:73.7%)、膝・足の症状 55 名:61.7% (男性 18 名:66.6%、女性 37 名:60.6%)、肩の症状 52 名:58.4% (男性 18 名:66.6%、女性 34 名:55.7%)、首の症状 49 名:55.1% (男性 14 名:51.8%、女性 35 名:57.3%)、自律神経の症状 41 名:46.1% (男性 11 名:40.7%、女性 30 名:49.1%)、手の症状 37 名:41.5% (男性 15 名:55.5%、女性 22 名:36.0%)、目の症状 37 名:41.5% (男性 14 名:51.8%、女性 23 名:37.7%)、便通の症状 30 名:33.7% (男性 11 名:40.7%、女性 19 名:31.1%)、排尿の症状 23 名:25.8% (男性 12 名:44.4%、女性 11 名:18.0%)、耳の症状 18 名:20.2% (男性 6 名:22.2%、女性 12

名:19.6%)、上記以外の症状 12 名:13.4% (男性 2 名:7.4%、女性 10 名:16.3%)、鼻の症状 10 名:11.2% (男性 4 名:14.8%、女性 6 名:9.8%)、呼吸器の症状 10 名:11.2% (男性 7 名:25.9%、女性 3 名:4.9%)、婦人科の症状 4 名:4.4% (女性 4 名:6.5%) の順で、上位 4 症状は運動器系愁訴に関連する項目が挙げられた (図 1、表 7)。また、上記以外の症状では、皮膚の症状、胃腸の症状が挙げられた。

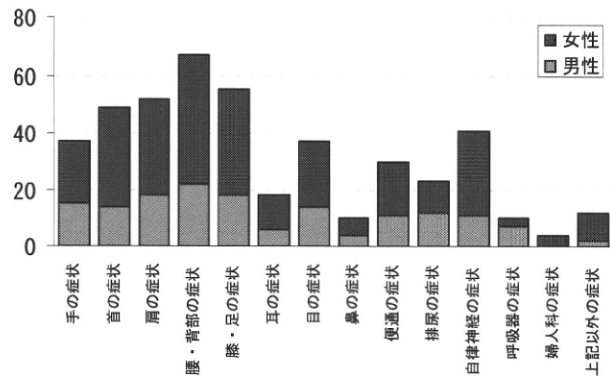


図 1：鍼灸治療を受けている症状（部位・領域別）

表 7：鍼灸治療を受けている症状（性別・部位・領域別）

症状の部位	男性(%)	女性(%)	合計(%)
手の症状	15 (55.5)	22 (36.0)	37 (41.5)
首の症状	14 (51.8)	35 (57.3)	49 (55.1)
肩の症状	18 (66.6)	34 (55.7)	52 (58.4)
腰・背部の症状	22 (81.4)	45 (73.7)	67 (75.2)
膝・足の症状	18 (66.6)	37 (60.6)	55 (61.7)
耳の症状	6 (22.2)	12 (19.6)	18 (20.2)
目の症状	14 (51.8)	23 (37.7)	37 (41.5)
鼻の症状	4 (14.8)	6 (9.8)	10 (11.2)
便通の症状	11 (40.7)	19 (31.1)	30 (33.7)
排尿の症状	12 (44.4)	11 (18.0)	23 (25.8)
自律神経の症状	11 (40.7)	30 (49.1)	41 (46.1)
呼吸器の症状	7 (25.9)	3 (4.9)	10 (11.2)
婦人科の症状	0 (0)	4 (6.5)	4 (4.4)
上記以外の症状	2 (7.4)	10 (16.3)	12 (13.4)

症状の詳細の結果 (複数回答) では、有効回答数 89 名で腰痛 56 名:62.9% (男性 20 名:74.0%、女性 36 名:59.0%) が最も多く、肩のこり 42 名:47.2% (男性 12 名:44.4%、女性 30 名:49.1%)、首のこり 40 名:44.9% (男性 10 名:37.0%、女性 30 名:49.1%)、膝痛 24 名:26.9% (男性 5 名:18.5%、女性 19 名:31.1%) と運動器系愁訴が上位を占めた。次いで、便秘 22 名:24.7% (男性 8 名:29.6%、女性 14 名:22.9%)、冷え 20 名:22.4% (男性 5 名:18.5%、女性 15 名:24.5%)、目の疲れ 19 名:21.3% (男性 7 名:25.9%、女性 12 名:19.6%) と日常生活の中での身近な愁訴がみられた (表 8)。

表 8：鍼灸治療を受けている症状

症状	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
手のしびれ	7 (25.9)	9 (14.7)	16 (17.9)
手の痛み	2 (7.4)	4 (6.5)	6 (6.7)
手の関節が痛む	3 (11.1)	5 (8.1)	8 (8.9)
手の動きが悪い	3 (11.1)	3 (4.9)	6 (6.7)
首のこり	10 (37.0)	30 (49.1)	40 (44.9)
首の痛み	4 (14.8)	11 (18.0)	15 (16.8)
肩のこり	12 (44.4)	30 (49.1)	42 (47.2)
肩の痛み	7 (25.9)	10 (16.3)	17 (19.1)
腰痛	20 (74.0)	36 (59.0)	56 (62.9)
背部痛	5 (18.5)	11 (18.0)	16 (17.9)
おしりの痛み	4 (14.8)	10 (16.3)	14 (15.7)
膝痛	5 (18.5)	19 (31.1)	24 (26.9)
足のしびれ	5 (18.5)	8 (13.1)	13 (14.6)
足の痛み	3 (11.1)	9 (14.7)	12 (13.4)
足の関節が痛む	1 (3.7)	6 (9.8)	7 (7.8)
足の動きが悪い	8 (29.6)	6 (9.8)	14 (15.7)
耳鳴り	3 (11.1)	7 (11.4)	10 (11.2)
難聴	3 (11.1)	4 (6.5)	7 (7.8)
目の疲れ	7 (25.9)	12 (19.6)	19 (21.3)
目のかすみ	5 (18.5)	12 (19.6)	17 (19.1)
鼻汁が出る	2 (7.4)	3 (4.9)	5 (5.6)
鼻がつまる	1 (3.7)	2 (3.2)	3 (3.3)

便秘	8 (29.6)	14 (22.9)	22 (24.7)
下痢	1 (3.7)	3 (4.9)	4 (4.5)
便秘と下痢を繰り返す	2 (7.4)	2 (3.2)	4 (4.5)
頻尿	6 (22.2)	6 (9.8)	12 (13.4)
排尿の切れが悪い	5 (18.5)	3 (4.9)	8 (8.9)
尿漏れ	4 (14.8)	3 (4.9)	7 (7.8)
尿失禁	2 (7.4)	0 (0)	2 (2.2)
頭痛	1 (3.7)	5 (8.1)	6 (6.7)
疲労倦怠感	3 (11.1)	4 (6.5)	7 (7.8)
不眠	2 (7.4)	11 (18.0)	13 (14.6)
物忘れ	1 (3.7)	6 (9.8)	7 (7.8)
体がだるい	4 (14.8)	4 (6.5)	8 (8.9)
イライラする	5 (18.5)	6 (9.8)	11 (12.3)
冷え	5 (18.5)	15 (24.5)	20 (22.4)
のぼせ	0 (0)	1 (1.6)	1 (1.1)
冷えのぼせ	0 (0)	4 (6.5)	4 (4.5)
咳や痰がつまる	3 (11.1)	0 (0)	3 (3.3)
息苦しい	2 (7.4)	3 (4.9)	5 (5.6)
生理異常	0 (0)	0 (0)	0 (0)
生理不順	0 (0)	1 (1.6)	1 (1.1)
不妊	0 (0)	2 (3.2)	2 (2.2)
生理痛	0 (0)	1 (1.6)	1 (1.1)
上記以外の症状	2 (7.4)	10 (16.3)	12 (13.4)

2) 鍼灸治療を受けている症状について他の医療機関を受診しているか？

鍼灸治療を受けている症状に対して、他の医療機関を受診しているかについては、全体（有効回答 76 名）では、受診「あり」と「なし」が共に 50% となった。性別では、男性で「はい」13 名:54.2%、「いいえ」11 名:45.8%、女性で「はい」25 名:48.1%、「いいえ」27 名:51.9%であった（表 9）。受診ありの回答での診療科については腰痛や膝痛等の運動器系疾患で整形外科 17 名、手足のしびれに対して神経内科 7 名、アトピーで皮膚科 4 名、尿漏れで泌尿器科 3 名、不妊で婦人科 2 名、腰痛で麻酔科 2

名、高血圧で内科 1 名、耳鳴りで耳鼻科 1 名、目のかすみで眼科 1 名であった。

表 9：鍼灸を受けている症状について他の医療機関を受診しているか？

受診の有無	男性(%)	女性(%)	合計(%)
はい	13 (54.2)	25 (48.1)	38 (50)
いいえ	11 (45.8)	27 (51.9)	38 (50)
合計	24 (100)	52 (100)	76 (100)

6. 鍼灸治療の通院について

1) 鍼灸院への通院期間

鍼灸治療院への通院期間については、全体 85 名に対して「1 年以上 3 年未満」と、「10 年以上」がそれぞれ 20 名:23.5%と高い割合を示し、また 1 年以上継続して通院している患者の合計は 57 名 (67.0%) と 6 割以上を占めた（表 10）。

表 10：鍼灸院への通院期間

通院期間	男性(%)	女性(%)	合計(%)
初診	0 (0)	2 (3.4)	2 (2.4)
1 ヶ月未満	1 (3.8)	3 (5.1)	4 (4.7)
1 ヶ月～3 ヶ月未満	1 (3.8)	3 (5.1)	4 (4.7)
3 ヶ月～6 ヶ月未満	4 (15.4)	6 (10.2)	10 (11.8)
6 ヶ月～9 ヶ月未満	0 (0)	6 (10.2)	6 (7.0)
9 ヶ月～1 年未満	2 (7.7)	0 (0)	2 (2.4)
1 年～3 年未満	6 (23.1)	14 (23.7)	20 (23.5)
3 年～6 年未満	4 (15.4)	10 (16.9)	14 (16.5)
6 年～10 年未満	1 (3.8)	2 (3.4)	3 (3.5)
10 年以上	7 (27.0)	13 (22.0)	20 (23.5)
合計	26(100)	59(100)	85(100)

2) 鍼灸院への通院割合

鍼灸院への通院割合については、「1 週間に 1 回」36 名:43.9%（男性 13 名:52.0%、女性 23 名:40.3%）と高い割合を占め、次いで「1 ヶ月に 1 回」17 名:20.8%（男性 4 名:16.0%、女性 13 名:22.8%）、「2 週間に 1 回」13 名:15.9%（男性 3 名:12.0%、

女性 10 名:17.5%) となった (表 11)。

表 11：鍼灸院への通院割合

通院割合	男性(%)	女性(%)	合計(%)
初診	0 (0)	2 (3.5)	2 (2.4)
1 週間に 1 回以内	13 (52.0)	23 (40.3)	36 (43.9)
1 週間に 2 回以上	0 (0)	1 (1.8)	1 (1.2)
2 週間に 1 回	3 (12.0)	10 (17.5)	13 (15.9)
1 ヶ月に 1 回	4 (16.0)	13 (22.8)	17 (20.8)
1 ヶ月に 2 回	3 (12.0)	7 (12.3)	10 (12.2)
1 ヶ月に 3 回	0 (0)	1 (1.8)	1 (1.2)
2 ヶ月以上に 1 回	2 (8.0)	0 (0)	2 (2.4)
合計	25(100)	57(100)	82(100)

7. 鍼灸治療での施術者との関係について

1) 先生はあなたの顔を見て話を聞いてくれたか？

先生が顔を見てくれたかについては、「全く見てくれなかった」、「ほとんど見てくれなかった」との回答はみられず、「少し見てくれた」1 名:1.2% (女性 1 名:1.7%)、「かなり見てくれた」15 名:17.4% (男性 7 名:26.9%、女性 8 名:13.3%)、「十分に見てくれた」70 名:81.4% (男性 19 名:73.1%、女性 51 名:85.0%) となった (表 12)。

表 12：先生はあなたの顔を見て話を聞いてくれたか？

顔を見てくれたか	男性(%)	女性(%)	合計(%)
全く見てくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ほとんど見てくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
少し見てくれた	0 (0)	1 (1.7)	1 (1.2)
かなり見てくれた	7 (26.9)	8 (13.3)	15 (17.4)
十分に見てくれた	19 (73.1)	51 (85.0)	70 (81.4)
合計	26 (100)	60 (100)	86 (100)

2) 先生と会話する時の先生との距離はどのように思うか？

先生との距離については、「ぜんぜん良くない」、「良くない」との回答はみられず、一方「とても良

い」49 名:57.0% (男性 11 名:42.3%、女性 38 名:63.4%) となり、「良い」、「とても良い」の回答があわせて 89 名 (96.5%) と大多数を占めた (表 13)。

表 13：先生と会話する時の先生との距離はどのように思うか？

話の距離	男性(%)	女性(%)	合計(%)
ぜんぜん良くない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
良くない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
まあまあ	1 (3.8)	2 (3.3)	3 (3.5)
良い	14 (53.9)	20 (33.3)	34 (39.5)
とても良い	11 (42.3)	38 (63.4)	49 (57.0)
合計	26 (100)	60 (100)	86 (100)

3) 先生の言葉遣いはどうか？

先生の言葉遣いについては、「とても良い」65 名:75.6% (男性 18 名:69.3%、女性 47 名:78.3%) と高い割合を占め、次いで「良い」34 名:22.1% (男性 7 名:26.9%、女性 12 名:20.0%)、「まあまあ」2 名:2.3% (男性 1 名:3.8%、女性 1 名:1.7%) そして、「ぜんぜん良くない」、「良くない」の回答はみられなかった (表 14)。

表 14：先生の言葉遣いはどうか？

言葉遣い	男性(%)	女性(%)	合計(%)
ぜんぜん良くない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
良くない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
まあまあ	1 (3.8)	1 (1.7)	2 (2.3)
良い	7 (26.9)	12 (20.0)	19 (22.1)
とても良い	18 (69.3)	47 (78.3)	65 (75.6)
合計	26 (100)	60 (100)	86 (100)

4) 先生は、あなたの訴えに「うなずき」や「相づち」をしてくれたか？

「うなずき」、「相づち」については、「全くしてくれなかった」、「ほとんどしてくれなかった」の回答はみられず、「いつもしてくれた」66 名:76.7% (男性 17 名:65.4%、女性 49 名:81.6%)、「ほとん

どいつもしてくれた」19名:22.1% (男性9名:34.6%、女性10名:16.7%)、「ときどきしてくれた」1名:1.2% (女性1名:1.7%) となった(表 15)。

表 15：先生はあなたの訴えに「うなずき」や「相づち」をしてくれたか？

うなずき・相づち	男性(%)	女性(%)	合計(%)
全くしてくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ほとんどしてくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ときどきしてくれた	0 (0)	1 (1.7)	1 (1.2)
ほとんどいつもしてくれた	9 (34.6)	10 (16.7)	19 (22.1)
いつもしてくれた	17 (65.4)	49 (81.6)	66 (76.7)
合計	26 (100)	60 (100)	86 (100)

5) 先生は、あなたの訴えを繰り返し確認してくれ
たか？

訴えの確認については、「全く確認してくれな
かった」、「ほとんど確認してくれなかった」の回答は
なく、「十分に確認してくれた」59名:70.2% (男
性14名:51.9%、女性45名:79.0%)、「かなり確認
してくれた」23名:27.4% (男性13名:48.1%、女
性10名:17.5%)、「少し確認してくれた」2名:2.4%
(女性2名:3.5%) となった (表 16)。

表 16：先生はあなたの訴えを繰り返し確認してくれ
たか？

訴えの確認	男性(%)	女性(%)	合計(%)
全く確認してくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ほとんど確認してくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
少し確認してくれた	0 (0)	2 (3.5)	2 (2.4)
かなり確認してくれた	13 (48.1)	10 (17.5)	23 (27.4)
十分に確認してくれた	14 (51.9)	45 (79.0)	59 (70.2)
合計	27 (100)	57 (100)	84 (100)

6) 先生は、あなたの話を聞いてくれるのに十分な
時間を取ってくれたか？

患者の話を聞く時間については、「十分に取っ
てくれた」54名:62.8% (男性12名:44.5%、女性42
名:71.2%)、「かなり取ってくれた」25名:29.1% (男

性13名:48.1%、女性12名:20.3%)、「少し取っ
てくれた」7名:8.1% (男性2名:7.4%、女性5名:8.5%)
となり、「ほとんど取ってくれなかった」、「全く取
ってくれなかった」の回答はみられなかった (表
17)。

表 17：先生はあなたの話を聞いてくれるのに十分な
時間を取ってくれたか？

話を聞く時間	男性(%)	女性(%)	合計(%)
全く取ってくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ほとんど取ってくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
少し取ってくれた	2 (7.4)	5 (8.5)	7 (8.1)
かなり取ってくれた	13 (48.1)	12 (20.3)	25 (29.1)
十分に取ってくれた	12 (44.5)	42 (71.2)	54 (62.8)
合計	27 (100)	59 (100)	86 (100)

7) 先生にあなたの症状のことを話しやすかった
か？

話しやすさについては、「とても話しやすかった」
65名:76.5% (男性18名:66.7%、女性47名:81.0%)、
「かなり話しやすかった」17名:20.0% (男性9
名:3.3%、女性8名:13.8%)、「少し話しやすかった」
2名:2.4% (女性2名:3.5%) となり、「かなり話し
づらかった」1名:1.1% (女性1名:1.7%)、「とて
も話しづらかった」の回答はみられなかった (表
18)。

表 18：先生にあなたの症状ことを話しやすかった
か？

症状の話しやすさ	男性(%)	女性(%)	合計(%)
とても話しづらかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
かなり話しづらかった	0 (0)	1 (1.7)	1 (1.1)
少し話しやすかった	0 (0)	2 (3.5)	2 (2.4)
かなり話しやすかった	9 (3.3)	8 (13.8)	17 (20.0)
とても話しやすかった	18 (66.7)	47 (81.0)	65 (76.5)
合計	27 (100)	58 (100)	85 (100)

8) 先生から受けた説明は、あなたにとって分かり
やすかったか？

説明の分かりやすさについては、「ほとんど分かった」45名:53.6%（男性23名:85.2%、女性22名:38.6%）、「完全に分かった」35名:41.7%（男性3名:1.1%、女性32名:56.1%）、「少し分かった」4名:4.7%（男性1名:3.7%、女性3名:5.3%）の順になり、「全く分からなかった」、「ほとんど分からなかった」の回答はみられなかった（表19）。

表 19：先生から受けた説明はあなたにとって分かりやすかったか？

説明の分かりやすさ	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
全く分からなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ほとんど分からなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
少し分かった	1 (3.7)	3 (5.3)	4 (4.7)
ほとんど分かった	23 (85.2)	22 (38.6)	45 (53.6)
完全に分かった	3 (1.1)	32 (56.1)	35 (41.7)
合計	27 (100)	57 (100)	84 (100)

9) 先生は、あなたの状態（病状）の説明に十分な時間を取ってくれたか？

患者への状態の説明時間については、「全く取ってくれなかった」、「ほとんど取ってくれなかった」の回答はみられず、「十分に取ってくれた」50名:58.1%（男性8名:29.6%、女性42名:71.2%）、「かなり取ってくれた」30名:34.9%（男性17名:63.0%、女性13名:22.0%）、「少し取ってくれた」6名:7.0%（男性2名:7.4%、女性4名:6.8%）となった（表20）。

表 20：先生はあなたの状態（病状）の説明に十分な時間を取ってくれたか？

状態の説明時間	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
全く取ってくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ほとんど取ってくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
少し取ってくれた	2 (7.4)	4 (6.8)	6 (7.0)
かなり取ってくれた	17 (63.0)	13 (22.0)	30 (34.9)
十分に取ってくれた	8 (29.6)	42 (71.2)	50 (58.1)
合計	27 (100)	59 (100)	86 (100)

10) 先生は、あなたの訴えを理解してくれたと思うか？

患者自身の訴えを施術者が理解してくれたと思うかについては、「全く理解してくれなかった」、「ほとんど理解してくれなかった」の回答はみられず、「十分に理解してくれた」52名:60.4%（男性12名:44.4%、女性40名:67.8%）、「かなり理解してくれた」33名:38.4%（男性14名:51.9%、女性19名:32.2%）、「少し理解してくれた」1名:1.2%（男性1名:3.7%）となった（表21）。

表 21：先生はあなたの訴えを理解してくれたと思うか？

訴えの理解度	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
全く理解してくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ほとんど理解してくれなかった	0 (0)	0 (0)	0 (0)
少し理解してくれた	1 (3.7)	0 (0)	1 (1.2)
かなり理解してくれた	14 (51.9)	19 (32.2)	33 (38.4)
十分に理解してくれた	12 (44.4)	40 (67.8)	52 (60.4)
合計	27 (100)	59 (100)	86 (100)

11) 先生は、あなたの訴えを聞く時に何で記録をつけたか？

先生が何で記録をつけたかについては、「ボールペン」46名:54.8%（男性14名:50.0%、女性32名:57.1%）となり、「鉛筆」3名:3.5%（男性2名:7.1%、女性1名:1.8%）、「サインペン」1名:1.2%（女性1名:1.8%）、「パソコン」1名:1.2%（女性1名:1.8%）、「記録を付けなかった」2名:2.4%（男性1名:3.6%、女性1名:1.8%）、「分からない」30名:35.7%（男性10名:35.7%、女性20名:35.7%）となった（表22）。

表 22：先生は、あなたの訴えを聞く時に何で記録をつけたか？

何で記録をつけたか	男性 (%)	女性 (%)	合計 (%)
鉛筆	2 (7.1)	1 (1.8)	3 (3.5)
ボールペン	14 (50.0)	32 (57.1)	46 (54.8)

サインペン	0 (0)	1 (1.8)	1 (1.2)
マジック	0 (0)	0 (0)	0 (0)
パソコン	0 (0)	1 (1.8)	1 (1.2)
記録をつけなかった	1 (3.6)	1 (1.8)	2 (2.4)
分からない	10 (35.7)	20 (35.7)	30 (35.7)
その他	1 (3.6)	0 (0)	1 (1.2)
合計	28(100)	56(100)	84(100)

12) 先生が、あなたの訴えを聞く際、筆記の代わりに録音する事に同意できるか？

先生が、筆記の代わりに録音をする事に同意できるかについては、「できる」42名:51.2%（男性20名:74.1%、女性22名:40.0%）、「できない」12名:14.6%（男性3名:11.1%、女性9名:16.4%、「分からない」28名:34.2%（男性4名:14.8%、女性24名:43.6%）となった（表23）。

表 23：あなたの訴えを聞く際、筆記の代わりに録音する事に同意できるか？

録音に同意できるか	男性(%)	女性(%)	合計(%)
できる	20 (74.1)	22 (40.0)	42 (51.2)
できない	3 (11.1)	9 (16.4)	12 (14.6)
分からない	4 (14.8)	24 (43.6)	28 (34.2)
合計	27(100)	55(100)	82(100)

13) あなたは先生とのコミュニケーションに満足しているか？（VASによる評価）

先生とのコミュニケーションについては、全体の平均値は84.8 [19.6] mmであった。39以下の回答はみられず、「40～49」、「50～59」、「60～69」は共に2名:2.6%（男性1名:4.2%、女性1名:1.9%）、「70～79」9名:11.9%（男性5名:20.8%、女性4名:7.7%）、「80～89」14名:18.4%（男性6名:25.0%、女性8名:15.4%）、「90～99」44名:57.9%（男性10名:41.6%、女性34名:65.4%）、「100」3名:4.0%（女性3名:5.8%）であった（表24）。

表 24：あなたは先生とのコミュニケーションに満足しているか？

VAS	男性(%)	女性(%)	合計(%)
0～9	0 (0)	0 (0)	0 (0)
10～19	0 (0)	0 (0)	0 (0)
20～29	0 (0)	0 (0)	0 (0)
30～39	0 (0)	0 (0)	0 (0)
40～49	1 (4.2)	1 (1.9)	2 (2.6)
50～59	1 (4.2)	1 (1.9)	2 (2.6)
60～69	1 (4.2)	1 (1.9)	2 (2.6)
70～79	5 (20.8)	4 (7.7)	9 (11.9)
80～89	6 (25.0)	8 (15.4)	14 (18.4)
90～99	10 (41.6)	34 (65.4)	44 (57.9)
100	0 (0)	3 (5.8)	3 (4.0)
合計	24 (100)	52 (100)	76 (100)

14) あなたは先生をどのくらい信頼しているか？（VASによる評価）

先生への信頼度については、全体の平均値は90.8 [11.1] mmであった。39以下の回答はみられず、「40～49」1名:1.3%（女性1名:1.8%）、「50～59」1名:1.3%（男性1名:4.2%）、「60～69」3名:3.8%（男性2名:8.3%、女性1名:1.8%）、「70～79」4名:5.1%（男性1名:4.2%、女性3名:5.5%）、「80～89」11名:13.9%（男性6名:25.0%、女性5名:9.1%）、「90～99」51名:64.5%（男性12名:50.0%、女性39名:70.9%）、「100」8名:10.1%（男性2名:8.3%、女性6名:10.9%）であった（表25）。

表 25：あなたは先生をどのくらい信頼しているか？

VAS	男性(%)	女性(%)	合計(%)
0～9	0 (0)	0 (0)	0 (0)
10～19	0 (0)	0 (0)	0 (0)
20～29	0 (0)	0 (0)	0 (0)
30～39	0 (0)	0 (0)	0 (0)
40～49	0 (0)	1 (1.8)	1 (1.3)
50～59	1 (4.2)	0 (0)	1 (1.3)
60～69	2 (8.3)	1 (1.8)	3 (3.8)
70～79	1 (4.2)	3 (5.5)	4 (5.1)

80～89	6 (25.0)	5 (9.1)	11 (13.9)
90～99	12 (50.0)	39 (70.9)	51 (64.5)
100	2 (8.3)	6 (10.9)	8 (10.1)
合計	24 (100)	55 (100)	79 (100)

15) 満足度と患者-施術者関係についての相関関係
満足度と患者-施術者関係についての相関関係が認められた項目については、先生への信頼 (0.525)、話しやすさ (0.487)、コミュニケーション (0.427) であった。また、話を聞く時間 (0.388)、話の距離 (0.355)、説明の分かりやすさと訴えの理解度 (0.33)、状態の説明時間 (0.327) については、弱い相関関係が認められた (表 26)。

表 26: 満足度と患者-施術者関係についての相関関係 (Pearson の相関係数)

調査内容	r 値	P 値	n
先生への信頼	.525	<.001	76
症状の話しやすさ	.487	<.001	76
コミュニケーション	.427	<.001	75
話を聞く時間	.388	<.001	77
話の距離	.355	.001	78
説明の分かりやすさ	.33	.004	76
訴えの理解度	.33	.003	77
状態の説明時間	.327	.004	77
訴えの確認	.28	.014	76
言葉遣い	.15	.191	78
顔を見てくれたか	.123	.285	78
うなずき・相づち	.05	.661	78

8. 鍼灸治療費と経済状況について

1) 鍼灸治療を健康保険で受けているか？

保険診療については、「いいえ」72名:82.8% (男性 25名:96.2%、女性 47名 77.0%) であった。一方「はい」11名:12.6% (男性 1名:3.8%、女性 10名:16.4%) と保険診療を受けているとの回答があった (表 27)。

表 27: 鍼灸治療を健康保険で受けているか？

保険の有無	男性(%)	女性(%)	合計(%)
はい	1(3.8)	10(16.4)	11(12.6)
いいえ	25(96.2)	47(77.0)	72(82.8)
分からない	0(0)	4(6.6)	4(4.6)
合計	26(100)	61(100)	87(100)

2) 鍼灸治療で 1 回に払う治療費

治療費は、「1001～2000 円」34名:40.0% (男性 8名:29.6%、女性 26名:44.8%) と「3001～4000 円」36名:42.4% (男性 11名:40.8%、女性 25名:43.1%) に多く、保険診療や初診の患者などもみられたため、「2001～3000 円」7名:8.2% (男性 6名:22.2%、女性 1名:1.7%)、「0～1000 円」5名:5.9% (男性 2名:7.4%、女性 3名:5.2%)、「4001～5000 円」1名:1.2% (女性 1名:1.7%) の回答もみられた (表 28)。

表 28: 鍼灸治療で 1 回に払う治療費

治療費	男性(%)	女性(%)	合計(%)
0～1000 円	2 (7.4)	3 (5.2)	5 (5.9)
1001～2000 円	8 (29.6)	26 (44.8)	34 (40.0)
2001～3000 円	6 (22.2)	1 (1.7)	7 (8.2)
3001～4000 円	11 (40.8)	25 (43.1)	36 (42.4)
4001～5000 円	0 (0)	1 (1.7)	1 (1.2)
5000 円以上	0 (0)	0 (0)	0 (0)
分からない	0 (0)	2 (3.5)	2 (2.3)
合計	27 (100)	58 (100)	85 (100)

3) 鍼灸治療に対して治療費はどう思うか？

治療費がどうかについては、「もっと安い方がよいと思う」12名 14.8% (大学 6名:13.6%、駅前 6名:16.2%)、「もう少し安くてもよいと思う」33名:40.7% (大学 12名:27.3%、駅前 21名:56.8%) であったのに対し、「もっと高くても価値があると思う」、「もう少し高くてもよいと思う」の回答はみられず、「これでよい」の回答は 36名:44.5% (大学 26名:59.1%、駅前 10名:27.0%) であった (表

29)。

表 29：鍼灸治療に対して治療費はどうか？

治療費はどうか	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
もっと安い方が良いと思う	6 (13.6)	6 (16.2)	12 (14.8)
もう少し安くても良いと思う	12 (27.3)	21 (56.8)	33 (40.7)
これでよい	26 (59.1)	10 (27.0)	36 (44.5)
もう少し高くても良いと思う	0 (0)	0 (0)	0 (0)
もっと高くても価値がある	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	44(100)	37(100)	81(100)

4) 年収はどのくらいか？

年収はどのくらいかについては、割合として10%以上を示すのは 400 万円未満の回答項目のみでみられ、400 万円未満の回答数を合わせると 50 名 (64.1%) と約 6 割を占めた。また、駅前での回答のみ 1000 万円以上が 7 名:18.9%みられた (表 30)。

表 30：世帯年収はどのくらいか？

年収	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
100 万円未満	8 (19.5)	2 (5.4)	10 (12.9)
100～200 万円未満	11 (26.8)	1 (2.7)	12 (15.4)
200～300 万円未満	7 (17.1)	7 (18.9)	14 (17.9)
300～400 万円未満	9 (22.0)	5 (13.6)	14 (17.9)
400～500 万円未満	0 (0)	7 (18.9)	7 (9.0)
500～600 万円未満	4 (9.8)	2 (5.4)	6 (7.7)
600～700 万円未満	1 (2.4)	2 (5.4)	3 (3.8)
700～800 万円未満	1 (2.4)	2 (5.4)	3 (3.8)
800～900 万円未満	0 (0)	2 (5.4)	2 (2.6)
900～1000 万円未満	0 (0)	0 (0)	0 (0)
1000 万円以上	0 (0)	7 (18.9)	7 (9.0)
合計	41(100)	37(100)	78(100)

9. 鍼灸治療の環境について

1) 待合室の清潔度合いについてどのように思っているか？

待合室の清潔については、「清潔である」 61

名:70.1% (大学 39 名:81.2%、駅前 22 名:56.4%) となり、「とても清潔である」 24 名:27.6% (大学 8 名:16.7%、駅前 16 名:41.0%) と合わせると 8 割以上 (85 名:87.7%) と大半を占め、「もっと清潔にしてほしい」、「もう少し清潔にしてほしい」の回答はみられなかった (表 31)。

表 31：待合室の清潔度合いはどのように思っているか？

待合室の清潔	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
もっと清潔にしてほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
もう少し清潔にしてほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
清潔である	39 (81.2)	22 (56.4)	61 (70.1)
とても清潔である	8 (16.7)	16 (41.0)	24 (27.6)
分からない	1 (2.1)	1 (2.6)	2 (2.3)
合計	48(100)	39(100)	87(100)

2) トイレの清潔度合いについてどのように思っているか？

トイレの清潔については、「清潔である」 61 名:69.3% (大学 40 名:81.7%、駅前 21 名:53.8%)、「とても清潔である」20 名:22.8% (大学 8 名:16.3%、駅前 12 名:30.8%) であった。一方で、「もう少し清潔にしてほしい」 1 名:1.1% (駅前 1 名:2.6%)、「分からない」 6 名:6.8% (大学 1 名:2.0%、駅前 5 名:12.8%) の回答がみられた (表 32)。

表 32：トイレの清潔度合いはどのように思っているか？

トイレの清潔	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
もっと清潔にしてほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
もう少し清潔にしてほしい	0 (0)	1 (2.6)	1 (1.1)
清潔である	40 (81.7)	21 (53.8)	61 (69.3)
とても清潔である	8 (16.3)	12 (30.8)	20 (22.8)
分からない	1 (2.0)	5 (12.8)	6 (6.8)
合計	49(100)	39(100)	88(100)

3) 治療室 (床や壁) の清潔度合いについてどのように思っているか？

治療室の清潔については、「清潔である」63名:71.6%(大学40名:81.7%、駅前23名:59.0%)、「とても清潔である」22名:25.0%(大学8名:16.3%、駅前14名:35.9%)となり、「もっと清潔にしてほしい」、「もう少し清潔にしてほしい」の回答はみられなかった(表33)。

表 33：治療室（床や壁）の清潔度合いはどのように思っているか？

治療室の清潔	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
もっと清潔にしてほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
もう少し清潔にしてほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
清潔である	40(81.7)	23(59.0)	63(71.6)
とても清潔である	8(16.3)	14(35.9)	22(25.0)
分からない	1(2.0)	2(5.1)	3(3.4)
合計	49(100)	39(100)	88(100)

4) ベッドまわりの清潔度合いについてどのように思っているか？

ベッドまわりの清潔については、「清潔である」59名:69.4%(大学38名:79.1%、駅前21名:56.8%)、「とても清潔である」25名:29.4%(大学9名:18.8%、駅前16名:43.2%)となり、「もっと清潔にほしい」、「もう少し清潔にほしい」の回答はみられなかった(表34)。

表 34：ベッドまわりの清潔度合いについてどのように思っているか？

ベッドまわりの清潔	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
もっと清潔にほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
もう少し清潔にほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
清潔である	38(79.1)	21(56.8)	59(69.4)
とても清潔である	9(18.8)	16(43.2)	25(29.4)
分からない	1(2.1)	0 (0)	1(1.2)
合計	48(100)	37(100)	85(100)

5) 先生は鍼を刺す所を丁寧に消毒してくれているか？

鍼を刺す部位の消毒については、「丁寧に消毒し

てくれている」50名:57.5%(大学28名:58.3%、駅前22名:56.4%)、「とても丁寧に消毒してくれている」34名:39.1%(大学18名:37.5%、駅前16名:41.0%)となった。一方で、「もう少し丁寧に消毒してほしい」2名:2.3%(大学2名:4.2%)との回答があり、「もっと丁寧に消毒してほしい」の回答はみられなかった(表35)。

表 35：先生は鍼を刺す所を丁寧に消毒してくれているか？

鍼を刺す部位の消毒	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
もっと丁寧に消毒してほしい	0 (0)	0 (0)	0 (0)
もう少し丁寧にしてほしい	2(4.2)	0 (0)	2(2.3)
丁寧に消毒してくれている	28(58.3)	22(56.4)	50(57.4)
とても丁寧にしてくれている	18(37.5)	16(41.0)	34(39.1)
分からない	0 (0)	1(2.6)	1(1.2)
合計	48(100)	39(100)	87(100)

6) 先生は鍼を刺す前に丁寧に手を消毒しているか？

施術者の手の消毒については、「丁寧に消毒してくれている」43名:49.4%(大学29名:60.4%、駅前14名:35.9%)、「とても丁寧に消毒してくれている」25名:28.7%(大学16名:33.3%、駅前9名:23.1%)であった。一方で、「もっと丁寧に消毒してほしい」1名:1.2%(駅前1名:2.6%)、「もう少し丁寧に消毒してほしい」1名:1.2%(大学1名:2.1%)、「分からない」17名:19.5%(大学2名:4.2%、駅前15名:38.4%)の回答がみられた(表36)。

表 36：先生は鍼を刺す前に丁寧に手を消毒しているか？

手指の消毒	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
もっと丁寧に消毒してほしい	0 (0)	1(2.6)	1(1.2)
もう少し丁寧にしてほしい	1(2.1)	0 (0)	1(1.2)
丁寧に消毒してくれている	29(60.4)	14(35.9)	43(49.4)
とても丁寧にしてくれている	16(33.3)	9(23.1)	25(28.7)

分からない	2 (4.2)	15 (38.4)	17 (19.5)
合計	48 (100)	39 (100)	87 (100)

7) 鍼灸院全体の衛生管理はどのように思っているか？ (VAS による評価)

鍼灸院全体の衛生管理については、全体の平均は 87.1 [11.2] mm であった。39 以下の回答はみられず、「40～49」2 名:2.6% (大学 1 名:2.5%、駅前 1 名:2.6%)、「50～59」0 名、「60～69」4 名:5.1% (大学 2 名:5.0%、駅前 2 名:5.3%)、「70～79」10 名:12.8% (大学 5 名:12.5%、駅前 5 名:13.2%)、「80～89」24 名:30.8% (大学 13 名:32.5%、駅前 11 名:28.9%)、「90～99」34 名:43.6%、(大学 17 名:42.5%、駅前 17 名:44.7%)、「100」4 名:5.1% (大学 2 名:5.0%、駅前 2 名:5.3%) であった (表 37)。

表 37：鍼灸院全体の衛生管理はどのように思っているか？

VAS	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
0～9	0 (0)	0 (0)	0 (0)
10～19	0 (0)	0 (0)	0 (0)
20～29	0 (0)	0 (0)	0 (0)
30～39	0 (0)	0 (0)	0 (0)
40～49	1 (2.5)	1 (2.6)	2 (2.6)
50～59	0 (0)	0 (0)	0 (0)
60～69	2 (5.0)	2 (5.3)	4 (5.1)
70～79	5 (12.5)	5 (13.2)	10 (12.9)
80～89	13 (32.5)	11 (28.9)	24 (30.7)
90～99	17 (42.5)	17 (44.7)	34 (43.6)
100	2 (5.0)	2 (5.3)	4 (5.1)
合計	40 (100)	38 (100)	78 (100)

8) 鍼灸院全体の清潔度合いはどのように思っているか？

鍼灸院全体の清潔度合いについては、「全く衛生的ではない」、「あまり衛生的ではない」の回答はみ

られず、「衛生的である」48 名:55.2% (大学 31 名:64.5%、駅前 17 名:43.6%) 次いで「とても衛生的である」24 名:27.6% (大学 9 名:18.8%、駅前 15 名:38.4%)、「普通」15 名:17.2% (大学 8 名:16.7%、駅前 7 名:18.0%) となった (表 38)。

表 38：鍼灸院全体の清潔度合いはどのように思っているか？

清潔度合い	大学(%)	駅前(%)	合計(%)
全く衛生的ではない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
あまり衛生的ではない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
普通	8 (16.7)	7 (18.0)	15 (17.2)
衛生的である	31 (64.5)	17 (43.6)	48 (55.2)
とても衛生的である	9 (18.8)	15 (38.4)	24 (27.6)
合計	48 (100)	39 (100)	87 (100)

9) 満足度と環境についての相関関係

満足度と環境についての相関関係は、衛生管理 (0.388)、清潔度合い (0.332) について弱い相関関係が認められた (表 39)。

表 39：満足度と環境についての相関関係 (pearson の相関係数)

調査内容	r 値	P 値	n
衛生管理	.388	<.001	77
清潔度合い	.332	.004	75
ベッドまわりの清潔さ	.291	.009	79
刺す部位の消毒	.258	.023	77
手指の消毒	.244	.058	61
治療室の清潔さ	.208	.071	76
待合室の清潔さ	.178	.122	77
トイレの清潔さ	.084	.481	73

10) 先生は治療にどのような鍼を使用しているか？

使用している鍼については、「使い捨ての鍼」63 名:75.0% (男性 23 名:85.2%、女性 40 名:70.2%) であった。一方で「使い捨てではない鍼」2 名:2.4%

(女性 2 名:3.5%)、「使い捨てではない自分専用の鍼」2 名:2.4% (女性 2 名:3.5%)、「分からない」の回答が 17 名:20.2% (男性 4 名:14.8%、女性 13 名:22.8%) みられた (表 40)。

表 40：先生は治療にどのような鍼を使用しているか？

使用している鍼の種類	男性(%)	女性(%)	合計(%)
使い捨ての鍼	23(85.2)	40(70.2)	63(75.0)
使い捨てではない鍼	0(0)	2(3.5)	2(2.4)
使い捨てではない自分専用の鍼	0(0)	2(3.5)	2(2.4)
その他の鍼	0(0)	0(0)	0(0)
分からない	4(14.8)	13(22.8)	17(20.2)
合計	27(100)	57(100)	84(100)

10. 鍼灸への期待について

1) 鍼灸受診前、鍼灸治療に対してどのくらい期待を持っていたか？ (VAS による評価)

鍼灸受診前の期待については、全体の平均は 77.6 [19.3] mm であった。19 以下の回答はみられず、「20～29」1 名:1.3% (男性 1 名:4.2%)、「30～39」1 名:1.3% (女性 1 名:1.8%)、「40～49」6 名:7.7% (男性 2 名:8.3%、女性 4 名:7.4%)、「50～59」7 名:9.0% (男性 3 名:12.5%、女性 4 名:7.4%)、「60～69」7 名:9.0% (男性 2 名:8.3%、女性 5 名:9.3%)、「70～79」13 名:16.6% (男性 5 名:20.8%、女性 8 名:14.8%)、「80～89」17 名:21.8% (男性 6 名:25.0%、女性 11 名:20.4%)、「90～99」21 名:26.9% (男性 5 名:20.8%、女性 16 名:29.6%)、「100」5 名:6.4% (女性 5 名:9.3%) であった (表 41)。

表 41：鍼灸受診前、鍼灸治療に対してどのくらい期待を持っていたか？

VAS	男性(%)	女性(%)	合計(%)
0～9	0(0)	0(0)	0(0)
10～19	0(0)	0(0)	0(0)
20～29	1(4.2)	0(0)	1(1.3)
30～39	0(0)	1(1.8)	1(1.3)

40～49	2(8.3)	4(7.4)	6(7.7)
50～59	3(12.5)	4(7.4)	7(9.0)
60～69	2(8.3)	5(9.3)	7(9.0)
70～79	5(20.8)	8(14.8)	13(16.6)
80～89	6(25.0)	11(20.4)	17(21.8)
90～99	5(20.8)	16(29.6)	21(26.9)
100	0(0)	5(9.3)	5(6.4)
合計	24(100)	54(100)	78(100)

2) 現在鍼灸治療に最も期待しているものは？

現在の鍼灸治療の期待については、「病気の治癒」36 名:43.4% (男性 11 名:42.3%、女性 25 名:43.8%)、「症状の軽減」32 名:38.5% (男性 12 名:46.2%、女性 20 名:35.1%)、次いで「病気の予防 (健康維持)」12 名:14.5% (男性 2 名:7.7%、女性 10 名:17.5%)、「健康増進」1 名:1.2% (女性 1 名:1.8%)、「コミュニケーション」1 名:1.2% (男性 1 名:3.8%)、「日常生活の向上」1 名:1.2% (女性 1 名:1.8%) の順であった (表 42)。

表 42：現在鍼灸に最も期待しているものは？

最も期待しているもの	男性(%)	女性(%)	合計(%)
健康増進	0(0)	1(1.8)	1(1.2)
病気の予防 (健康維持)	2(7.7)	10(17.5)	12(14.5)
病気の治癒	11(42.3)	25(43.8)	36(43.4)
症状の軽減	12(46.2)	20(35.1)	32(38.5)
リラックス	0(0)	0(0)	0(0)
コミュニケーション	1(3.8)	0(0)	1(1.2)
日常生活の向上	0(0)	1(1.8)	1(1.2)
その他	0(0)	0(0)	0(0)
合計	26(100)	57(100)	83(100)

3) 鍼灸治療の効果について (VAS による評価)

鍼灸治療の効果について、最大 3 症状までの回答結果では、平均は、1 番目に挙げたもの (77 名) 71.6 [22.3] mm、2 番目に挙げたもの (62 名) 68.6 [25.8] mm、3 番目に挙げたもの (43 名) 72.3 [26.5]

mmであった(表 43)。効果ごとの評価の分布では、1 番目に挙げたもの(図 2)は「60～69」、「70～79」、「80～89」「90～99」、2 番目に挙げたもの(図 3)は「70～79」、「90～99」、3 番目に挙げたもの(図 4)は「90～99」で 10 名以上の回答者があった。

表 43：鍼灸治療の効果

治療効果	人数	平均年齢 [標準偏差]
1 番目に挙げたもの	77	71.6 [22.3]
2 番目に挙げたもの	62	68.6 [25.8]
3 番目に挙げたもの	43	72.3 [26.5]

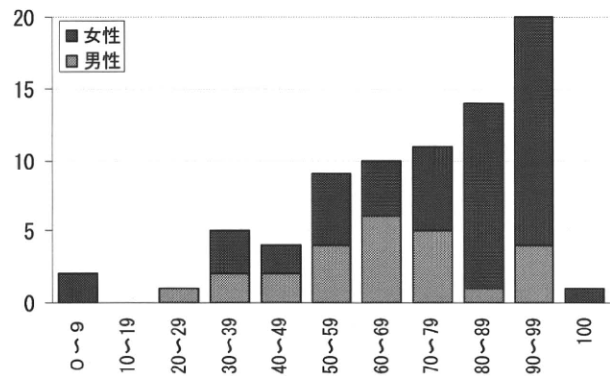


図 2：鍼灸治療の効果（1 番目に挙げたもの、n=77）

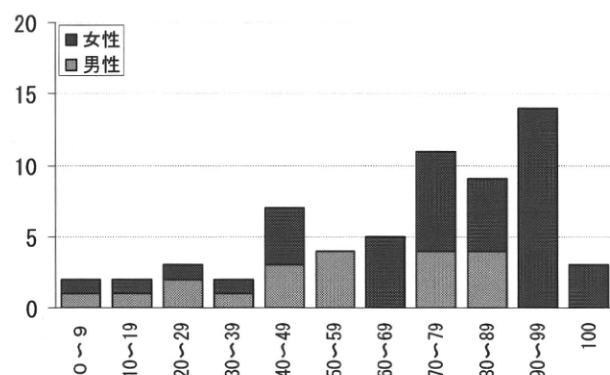


図 3：鍼灸治療の効果（2 番目に挙げたもの、n=62）

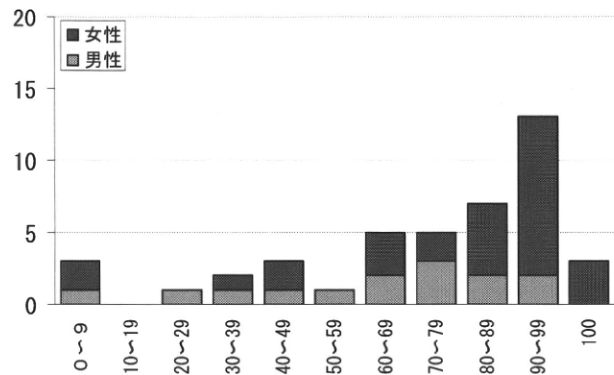


図 4：鍼灸治療の効果（3 番目に挙げたもの、n=43）

4) これからも鍼灸治療を受けてみようと思うか？
 これからも鍼灸治療を受けるかについては、「はい」79 名:98.8%（男性 24 名:100%、女性 55 名:98.2%）、「いいえ」1 名:1.2%（女性 1 名:1.8%）であった(表 44)。

表 44：これからも鍼灸治療を受けてみようと思うか？

受診を続けたいか	男性(%)	女性(%)	合計(%)
はい	24 (100)	55 (98.2)	79 (98.8)
いいえ	0 (0)	1 (1.8)	1 (1.2)
合計	24 (100)	56 (100)	80 (100)

11. 総合的な満足度について

総合的な満足度の VAS の結果は、全体の平均は 81.8 [14.9] mm であった。19 以下の回答はみられず、「20～29」1 名:1.3%（女性 1 名:1.9%）、「30～39」0 名、「40～49」3 名:3.8%（男性 2 名:7.7%、女性 1 名:1.9%）、「50～59」1 名:1.3%（男性 1 名:3.9%）、「60～69」12 名:15.2%（男性 5 名:19.2%、女性 6 名:11.3%）、「70～79」11 名:13.9%（男性 5 名:19.2%、女性 6 名:11.3%）、「80～89」21 名:26.6%（男性 7 名:26.9%、女性 14 名:26.4%）、「90～99」25 名:31.6%（男性 5 名:19.2%、女性 20 名:37.7%）、「100」5 名:6.3%（男性 1 名:3.9%、女性 4 名:7.6%）であった(表 45)。

表 45：総合的な満足度(VAS)

VAS	男性(%)	女性(%)	合計(%)
0～9	0 (0)	0 (0)	0 (0)
10～19	0 (0)	0 (0)	0 (0)
20～29	0 (0)	1 (1.9)	1 (1.3)
30～39	0 (0)	0 (0)	0 (0)
40～49	2 (7.7)	1 (1.9)	3 (3.8)
50～59	1 (3.9)	0 (0)	1 (1.3)
60～69	5 (19.2)	7 (13.2)	12 (15.2)
70～79	5 (19.2)	6 (11.3)	11 (13.9)
80～89	7 (26.9)	14 (26.4)	21 (26.6)
90～99	5 (19.2)	20 (37.7)	25 (31.6)
100	1 (3.9)	4 (7.6)	5 (6.3)
合計	26 (100)	53 (100)	79 (100)

総合的な満足度のカテゴリカルスケールの結果は、「大変満足」16名:18.6%（男性4名:14.8%、女性12名:20.3%）、「満足」51名:59.3%（男性14名:51.9%、女性37名:62.7%）、「普通」15名:17.6%（男性8名:29.6%、女性7名:11.9%）であった。一方で、「大変不満」2名:2.3%（女性2名:3.4%）、不満2名:2.3%（男性1名:3.7%、女性1名:1.7%）の回答がみられた（表46）。

表 46：総合的な満足度（カテゴリカルスケール）

カテゴリ	男性(%)	女性(%)	合計(%)
大変不満	0 (0)	2 (3.4)	2 (2.3)
不満	1 (3.7)	1 (1.7)	2 (2.3)
普通	8 (29.6)	7 (11.9)	15 (17.5)
満足	14 (51.9)	37 (62.7)	51 (59.3)
大変満足	4 (14.8)	12 (20.3)	16 (18.6)
合計	27(100)	59(100)	86(100)

総合的な満足度のフェイススケールの結果は、「1.泣いている顔」1名:1.2%（女性1名:1.7%）、「2.泣きそうな顔」0名、「3.少し悲しそうな顔」4名:4.6%（男性3名:11.1%、女性1名:1.7%）、を

不満しているとみなすと、合わせて5.8%となった。一方、「5.少し笑っている顔」36名:41.9%（男性12名:44.5%、女性24名:40.7%）、「6.喜んでいる顔」23名:26.7%（男性4名:14.8%、女性19名:32.2%）を満足しているとみなすと、合わせて68.6%となり、「4.普通の顔」22名:25.6%（男性8名:29.6%、女性14名:23.7%）であった（表47）。

表 47：総合的な満足度（フェイススケール）

顔の表情	男性(%)	女性(%)	合計(%)
1 泣いている顔	0 (0)	1 (1.7)	1 (1.2)
2 泣きそうな顔	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3 少し悲しそうな顔	3 (11.1)	1 (1.7)	4 (4.6)
4 普通の顔	8 (29.6)	14 (23.7)	22 (25.6)
5 少し笑っている顔	12 (44.5)	24 (40.7)	36 (41.9)
6 喜んでいる顔	4 (14.8)	19 (32.2)	23 (26.7)
合計	27(100)	59(100)	86(100)

12. 総合的な満足度に対する信頼性分析について

総合的な満足度を評価するにあたって、評価にVAS、カテゴリカルスケール、フェイススケールの3種類の評価を用いたため、この3種類の評価が同一の質問内容として考えることができるかを信頼性分析により検討した。その結果、Standardized Item alpha が0.79となった。

13. 満足度に影響を与える要因

満足度に影響を与える要因を抽出するために、各質問項目と満足度の相関係数を検討し、強制投入法による重回帰分析を行った。その結果、相関関係では、相関が認められた項目については、治療効果□(0.726)、治療効果□(0.641)、治療効果□(0.565)、先生への信頼(0.525)、症状の話しやすさ(0.487)、コミュニケーション(0.427)であった（表48）。強制投入法による重回帰分析では、30変数による重相関係数(R)は0.928、決定係数(R²)が0.861を示した。多重共線性を診断する指標であるVIF(Variance Inflation Factor)の値は、全ての変

数で 10 未満を示し、変数間での多重共線性がみられないことが示された。さらに、満足度に対して影響を表すベータ値が高かった項目は、治療効果□ (0.358)、SF-36 の下位尺度である RE (精神の日常役割機能) (-0.301) であった (表 49)。

表 48：満足度と各項目との相関関係 (pearson の相関係数)

調査内容	r 値	P 値	n
場所 (大学)	.82	.236	79
場所 (京都駅前)	-.82	.236	79
性別 (男性)	-.229	.021	79
性別 (女性)	.229	.021	79
年齢	-.156	.088	77
Euroqol	.281	.007	77
SF-36(PF)	.136	.119	77
SF-36(PR)	.096	.204	77
SF-36(BP)	.013	.455	77
SF-36(GH)	.145	.105	76
SF-36(VT)	.161	.085	74
SF-36(SF)	.092	.216	76
SF-36(RE)	-.083	.242	74
SF-36(MH)	.067	.285	74
通院期間 (1 年未満)	-.156	.087	78
通院期間 (1 年以上)	.156	.087	78
顔を見てくれたか	.123	.142	78
話の距離	.355	.001	78
言葉遣い	.15	.096	78
うなずき・相づち	.05	.331	78
訴えの確認	.28	.007	76
話を聞く時間	.388	<.001	77
症状の話しやすさ	.487	<.001	76
説明の分かりやすさ	.33	.002	76
状態の説明時間	.327	.002	77
訴えの理解度	.33	.002	77
コミュニケーション	.427	<.001	75

先生への信頼	.525	<.001	76
治療費	-.5	.334	77
治療費をどう思うか	.153	.096	74
年収	-.09	.224	73
待合室の清潔さ	.178	.061	77
トイレの清潔さ	.084	.24	73
治療室の清潔さ	.208	.036	76
ベッドまわりの清潔さ	.332	.002	75
刺す部位の消毒	.258	.012	77
手指の消毒	.244	.029	61
衛生管理	.388	<.001	77
清潔度合い	.291	.005	79
受診前の期待	.238	.019	76
治療効果①	.641	<.001	74
治療効果②	.565	<.001	59
治療効果③	.726	<.001	40

表 49：満足度に影響を与える要因 (重回帰分析、強制投入法) R=0.928 R²=0.861

調査内容	非標準化 標準化係数		VIF
	B	ベータ	
性別 (女性)	.105	.032	1.775
年齢	-.01605	-.161	2.395
Euroqol	2.133	.241	3.753
SF-36(BP)	.001578	.024	4.22
SF-36(VT)	-.01093	-.155	3.639
SF-36(SF)	.0336	.239	2.87
SF-36(RE)	.01432	-.301	3.045
通院期間 (1 年以上)	.208	.066	1.891
顔を見てくれたか	-.726	-.228	3.268
話の距離	.167	.066	3.872
言葉遣い	-.04755	-.016	3.957
うなずき・相づち	-.369	-.122	3.155
話を聞く時間	.693	.298	3.463

症状の話しやすさ	.276	.105	4.121
状態の説明時間	.184	.079	4.321
訴えの理解度	-.09015	-.033	3.613
コミュニケーション	-.187	-.156	3.125
治療費	-.222	-.158	2.36
治療費をどう思うか	-.007468	-.004	2.72
年収	-.05048	-.097	2.457
トイレの清潔さ	-.714	-.216	2.37
治療室の清潔さ	.396	.117	3.971
ベッドまわりの清潔さ	.684	.211	3.563
刺す部位の消毒	-.24	-.086	2.854
手指の消毒	.09001	.035	2.509
衛生管理	.09459	.071	2.548
清潔度合い	-.0731	-.033	3.409
受診前の期待	.0774	.095	1.634
治療効果①	.24	.358	2.76
治療効果②	-.08988	-.155	3.231

D. 考 察

1. 患者の基本情報

今回の調査では、配布したアンケート 131 部のうち 89 部:67.9%が回収された。平成 18 年度世論調査年鑑¹²⁾によると、郵送調査法の回収率は 47.7%と報告されており、今回の調査は 67.9%と回収率は高い値であった。

この結果は、今回実施した施設の鍼灸師に調査の内容について十分に説明し、さらに鍼灸師より患者に調査の説明をし、同意が得られた上で配布したものと考えられる。しかし、アンケートを配布した 89 名の対象患者のうち、初診患者が 2 名と少なく、その他の患者の通院期間は 1 年以上継続している患者が 57 名:67.0%を占め、継続的に通院していた為、既に鍼灸治療に対して肯定的な意見を持っている患者に偏っていた可能性が考えられ、通院期間を調整因子として統計分析を行ったが、アンケート配布時に面接者バイアスが働いた可能性も考えられ

た。従って、本報告結果は、鍼灸治療を比較的理解している患者の調査結果であることを理解した上で解釈する必要があると考えられた。

今回対象となった患者 89 名の平均年齢は、69.1±15.0 歳（男性 70.3±15.6 歳、女性 68.5±14.8 歳）で、高野ら⁴⁾の報告（53.9±17.2 歳）や森戸ら¹³⁾の報告（53.2±17.1 歳）より平均年齢が高かった。性別の分布は男性 27 名(30.4%)、女性 61 名(68.5%)、無回答 1 名(1.1%)と女性の回答者が多く、職業別では家事（主婦）、退職者、会社員・自営業の順に回答が多かった。

今回の調査で平均年齢が高かったことについては、田口ら¹⁴⁾により、明治国際医療大学附属鍼灸センターの平均年齢について、67.4 ±15.7 歳と報告されており、また、廣ら¹⁵⁾により、明治国際医療大学附属京都駅前鍼灸センターの平均年齢について、男性51±18歳、女性53±17歳と報告されており、施設が限定されてしまったことが要因として考えられた。

2. 健康状態について

今回は健康状態を EuroQol と SF-36 で評価した。

EuroQol で健康状態を示す Tariff スコアは平均 0.72±0.14 であり、高野ら⁴⁾や縄田ら¹⁶⁾の報告よりも低い値を示した。5 項目法では、完全な健康状態 1.000 と答えた患者は 16.8%であり、痛み/不快感の項目で「中程度の痛みや不快感がある」と答えた患者は 73.0%であった。一方、健診受診者（京都府下 2 町：2314 名を対象、回収数 1890 名、平均年齢 65.5±11.7 歳）の藤田ら¹⁷⁾の調査結果では、完全な健康状態 1.000 と答えた患者は 54.8%で、痛み/不快感の項目で「中程度の痛みや不快感がある」と答えた患者は 38.4%であった。このことから、今回の調査対象となった患者は健診受診者のような対象者に比べ、痛みや不快感を持って通院されていることが示された。

SF-36 の結果では、8 つの下位尺度の 8 項目のそ